

Economic Indicators

発表日: 2024年1月31日(水)

景気動向指数(2023年12月)の予測

～基調判断は「改善」維持も、先行きに下振れリスク～

第一生命経済研究所

シニアエグゼクティブエコノミスト 新家 義貴

(TEL: 050-5474-7490)

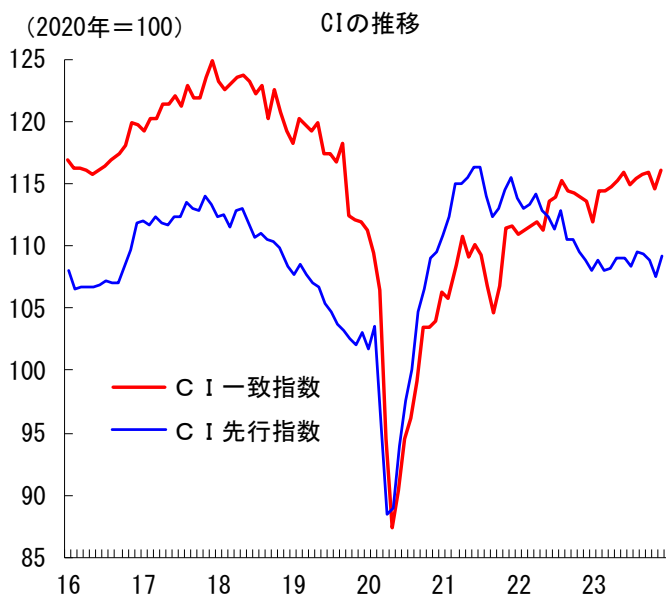
2ヶ月ぶりの上昇も、均せば横ばい圏内の動き

内閣府から2月7日に公表される2023年12月の景気動向指数では、C I一致指数を前月差+1.5ポイントと予想する。内訳では、投資財出荷指数や輸出数量指数などが大きく押し上げる見込みである。

C I一致指数は比較的大きなプラスが見込まれるが、11月の低下分(前月差▲1.3ポイント)を取り戻した程度であり、均してみれば一進一退の横ばい圏での動きが続いている姿に変化は見られない。

24年1～3月に基調判断下方修正の可能性あり

C I一致指数の基調判断は、9ヶ月連続で「改善」が予想されるが、先行きについては下振れ含みだ。C I一致指数と関連が深い鉱工業指数をみると、24年1月の製造工業生産予測指数で前月比▲6.2%の大幅減産が見込まれており、予測指数の上振れバイアスを除去した経済産業省による補正值では前月比▲10.5%と二桁減となっている。特に輸送機械での下振れが大きく、大手メーカーにおける生産停止が影響している可能性がある。なお、仮に23年12月のC I一致指数が前月差+1.5ポイントとなった後、24年1月に前月差▲3.3ポイント以下であれば、基調判断は「足踏み」へと下方修正されることになる。ハードルはかなり高いものの、予測指数の弱さからみればあり得ない話とはいえない。また、仮に1月が「改善」で踏みとどまったとしても、3月分(2月上昇、3月低下)で「足踏み」に下方修正となる可能性もあるだろう。目先、基調判断の下方修正リスクに注意が必要だ。



(出所)内閣府「景気動向指数」

(注)直近の2023年12月は第一生命経済研究所による予測値

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命保険ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。

